

プロジェクト研究 1

協働型・双方向型の授業づくり

— 言語活動の充実、ICTの活用 —

生駒市立あすか野小学校	教諭	鈴木 茉 奈 Suzuki Mana	研究指導主事	徳富智香子 Tokutomi Chikako
橿原市立鴨公小学校	教諭	永井麻希子 Nagai Makiko	研究指導主事	平松 康 明 Hiramatsu Yasuaki
斑鳩町立斑鳩中学校	教諭	島田美 帆 Shimada Miho	研究指導主事	高木 信 行 Takagi Nobuyuki
河合町立河合第一中学校	教諭	住谷 淳 太郎 Sumitani Juntarou	研究指導主事	長谷川あゆみ Hasegawa Ayumi
県立香芝高等学校	教諭	鈴木 賢 治 Suzuki Kenji	研究指導主事	真井 克 子 Sanai Katsuko
王寺町立王寺小学校	教諭	安 永 剛 Yasunaga Gou	研究指導主事	廣見 敦 志 Hiromi Atsushi
斑鳩町立斑鳩東小学校	教諭	北口 克 也 Kitaguchi Katsuya	研究指導主事	宮崎 博 文 Miyazaki Hirohumi

要 旨

児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力を育成するために、言語活動の充実やICTの活用を図りながら、協働的・双方向的な学びを取り入れた授業の在り方について研究を行った。授業実践したどの校種においても、協働的・双方向的な学びを意図的・計画的に取り入れて授業を行うことは、児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力の育成に有効であると示唆された。

キーワード： 協働的・双方向的な学び、主体的・能動的に学ぶ力、言語活動の充実、ICTの活用

第1章 総論

1 はじめに

奈良県立教育研究所では、平成25年度のプロジェクト研究「児童生徒の学ぶ意欲を高める授業の工夫—共に学び合う活動の充実から—」において「協働的・双方向的な学び」に着目した研究を行った。この研究では、学習意欲を高める授業とは児童生徒が主体的に取り組むことのできる授業であると考え、協働的・双方向的なグループ学習やペア学習を授業に効果的に取り入れることによって、児童生徒の学習意欲を高めることができることを実証した。

この間、平成25年6月に閣議決定された第2期教育振興基本計画では「確かな学力をより効果的に育成するため、言語活動の充実や、グループ学習、ICTの積極的な活用をはじめとする指導方法・指導体制の工夫改善を通じた協働型・双方向型の授業革新を推進する。」として、「協働型・双方向型の授業」を推進することが施策にも位置付けられた。

一方、全国的な調査等から本県の状況を見ると、「言語活動の充実」や「ICTの活用」という面において、本県の現状は楽観を許さない。

例えば、図1及び図2は、平成26年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙及び児童生徒質問紙調査で、「授業で話し合う活動を行ったか。」という項目に対して、「当てはまる」、「どちらかという、当てはまる」と回答した学校及び児童生徒の割合を示したものであるが、小学校、中学校ともに、「当てはまる」と回答した本県の学校及び児童生徒の割合は、全国平均を下回っている。特に中学校においては全国と比して学校質問紙で20.6ポイント、生徒質問紙で10.7ポイントと大幅に下回る結果となっている。また、同学校質問紙において、「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けたか。」という質問に対して「当てはまる」と回答した本県の小学校、中学校の割合も、全国平均を下回っている(図3)。

さらに、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導を行ったか。」という項目に対しても、小学校で「当てはまる」と回答した学校が、全国平均をやや上回ったものの、「当てはまる」「どちらかという、当てはまる」と肯定的な回答をした本県の学校の割合は、全国平均を下回っている(図4)。

以上のような状況を踏まえ、本年度のプロジェクト研究1では、「言語活動の充実」及び「ICTの積極的な活用」を切り口として、協働型・双方向型の授業の在り方について研究を進めたいと考えた。学習意欲の向上に向けた授業改善をいかに進めるかは本県の喫緊の課題である。そこで、昨年度の研究を一步進め、「言語活動の充実」、「ICTの積極的な活用」を念頭に置きながら、協働的・双方向的な学びを意図的・計画的に取り入れることにより、児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力がどのように変容するかを検証することにした。

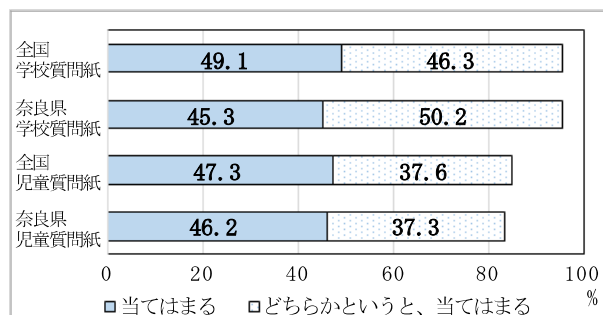


図1 授業で話し合う活動を行ったか。(小学校)

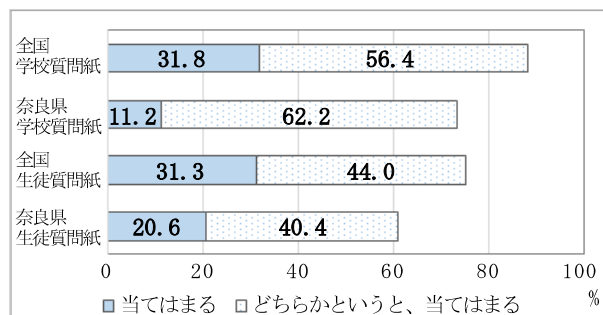


図2 授業で話し合う活動を行ったか。(中学校)

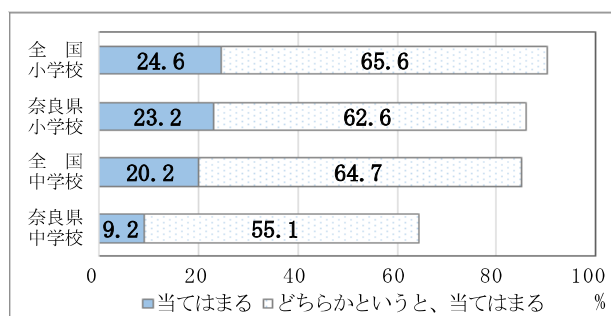


図3 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けたか。

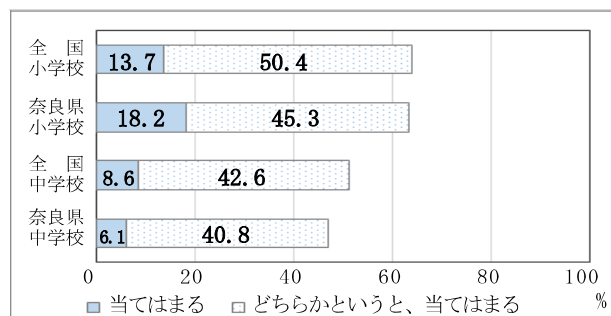


図4 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導を行ったか。

2 本研究における「協働的・双方向的な学び」について

前述のように、昨年度のプロジェク研究では、協働的・双方向的な学びに着目し、学習の中に「自分の考えを説明する」、「互いの考えを深め合う」といった活動を取り入れた授業を行った。

本年度は、さらに進めて、「協働的・双方向的な学び」とは、次の①②③の過程を経た学びであると考へ、各授業実践に取り組むこととした。

- ① 児童生徒が既宧の知識や調べたことなどの根拠に基づいて、ある事柄や事象に対する見方・考へ方を表現する。
- ② 教師の支援を受けたり、他の児童・生徒と質問・反論・補足説明し合う双方向のやり取りをしながら、それまでになかった見方・考へ方に気付いたり、考へをより確かなものにしたりする。
- ③ ①②の学びを通して、学習集団全体あるいは個人の考へを深め合う。

3 研究概要

本研究では、協働型・双方向型の授業を通して、児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力がどのように変容するかを検証した。

実践を進めるにあたっては、本県の喫緊課題である「言語活動の充実」と「ICTの積極的な活用」を授業づくりの切り口として設定した。この二つに関する実践事例は、文部科学省をはじめ各都道府県教育委員会、各研究機関等から多数紹介されている。今回の研究では、これら先進的な事例を参考としながらも、各研究校の実情に応じて研究を行うこととし、「言語活動の充実」や「ICTの積極的な活用」と協働的・双方向的な学びとの関係を意識した、本県の状況に応じた具体的な授業モデルを提示することを目指して取り組んだ。

言語活動やICTを授業に取り入れる点については、各教科等において児童生徒に身に付けさせたい力を見極め、いつ、どのような場面で取り入れるのがよいかを十分吟味する必要がある。言うまでもなく、言語活動を行うことやICTを活用することは、教科等の目的を達成させるための手立てであり、それらを導入すること自体を目的にしてしまつては、児童生徒にとって「活動あつて学びなし」の状況を生み出してしまいかねない。一見児童生徒が盛んに活動しているように見えても、個人の意見を出し合うだけであつたり、一人の発言者の意向に従っているだけであつたりする場合には、先述した協働的・双方向的な学びは成立しているとは言い難く、児童生徒に学びを通じた見方・考へ方の変容があつたかどうかを確かめる必要がある。

従つて、本研究では、各教科等の目的を達成する手立てとしての「言語活動の充実」「ICTの積極的な活用」を切り口に、協働的・双方向的な学びを意図的、計画的に取り入れた授業を展開することとした。さらに、各校種各教科の特徴を踏まえて、言語活動やICTを取り入れるにふさわしい単元や授業場面を検討し、それらの具体的な学習、指導方法についても研究を進めた。

実践の前後では共通の質問紙調査を実施し、その結果について分析を行った。その他、授業観察、ノート・ワークシートの記述、作品等を基に、児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力の変容について総合的に考察し、本研究の成果と課題としてまとめた。

4 研究方法

(1) 研究対象

研究対象校は、地域性や学校規模を考慮に入れながら、言語活動の充実に関する研究では小学

校2校、中学校2校、高等学校1校の5校を、ICTの活用の研究では校種を小学校に絞って2校を選定した。

ア 言語活動の充実

- ・小学校 国語科（生駒市立あすか野小学校）
- ・小学校 図画工作科（橿原市立鴨公小学校）
- ・中学校 社会科（斑鳩町立斑鳩中学校）
- ・中学校 外国語科（河合町立河合第一中学校）
- ・高等学校 理科（県立香芝高等学校）

イ ICTの活用

- ・小学校（王寺町立王寺小学校）
- ・小学校（斑鳩町立斑鳩東小学校）

(2) 主体的・能動的に学ぶ力の測定について

本研究では、質問紙調査や授業の検証、ノート・ワークシートの記述、作品等から、児童生徒の変容を分析することとした。

質問紙調査は、児童生徒の自ら学ぶ意欲を測定するために櫻井茂男（2009）が設定した項目及び全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の質問項目の中から、児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力や協働的・双方向的な学びの状態を測定するのに効果的だと考えた31項目を抜粋し、共通の質問紙を作成して実施した（表1）。

なお、櫻井が設定した項目については、櫻井が「自ら学ぶ意欲のプロセスモデル」で示した「欲求・動機」、「学習行動」、「認知・感情」、「安心して学べる環境」の4つの要因を構成する因子ごとに、それぞれ2～3項目を抜粋した。質問項目と各要因、各要因を構成するそれぞれの因子との関係については、表1に示したとおりである。

言語活動の充実についての研究における質問紙調査では、共通の質問項目に、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査から教科に関わる3項目を追加して実施し、統計的な処理を行った（表2）。児童の発達段階に留意し、一部表現をわかりやすくしたり、それぞれの取組内容によって個別の質問項目を追加したりしている。

ICTの活用についての研究における質問紙調査では、共通の質問項目を基に、それぞれの取組に応じて、学ぶ意欲の変容や協働的・双方向的な学びに関わる項目を設定するとともに、自由記述も含む形で、ICTを活用した授業やICT機器に関する児童の受け止め方について調査した（表3）。

表1 協働的・双方向的な学びの状態や児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力等を測定する共通の質問項目

質問項目	参考：櫻井茂男が、「自ら学ぶ意欲のプロセスモデル」で示した要因と因子	
	要因	因子
1 疑問に思うことは、わかるまで調べたい	欲求・動機	知的好奇心
2 興味のあることは、とことん調べたい		
3 学校で教えてくれること以外でも、いろいろなことを学びたい		
4 人の役に立てるようになりつばな人間になりたい		有能さへの欲求
5 自分もっている能力をじゅうぶんにはつきしたい		

6 わからないことはとことん調べている 7 興味のあることは調べずにはいられない	学習行動	情報収集
8 自分から勉強にとりくんでいる		自発学習
9 テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する 10 むずかしい問題にであうとよりやる気がでる		挑戦行動
11 今までよりむずかしい問題にとりくむことが多い 12 問題のとき方はいくつか考えることにしている		深い思考
13 学校で勉強したことが正しいかどうか、家に帰ってもういちど考えてみる 14 ひとりで解決できることは、できるだけひとりでしている 15 むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない		独立達成
16 いろいろなことを学ぶことは楽しい 17 学ぶことはおもしろいと思う 18 新しいことを学ぶのはおもしろい	認知・感情	おもしろさと 楽しさ
19 勉強面では友だちからたよられていると思う 20 友だちに質問されても、ほとんどのことはうまく答えられる		有能感
21 学校ではおちついて授業を受けている 22 授業でわからないことがあると、クラスの友だちにきくことができる 23 授業でわからないことがあると、先生に質問できる	安心して学べる環境	
24 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか 25 自分の行動や発言に自信をもっていますか 26 友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか 27 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか 28 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか 29 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか 30 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか 31 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか	/	

※質問項目1～23（23項目）：櫻井茂男が設定した「児童生徒の自ら学ぶ意欲を測定する項目」より、児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力の測定に関わると考えられる項目を抜粋

※質問項目24～31（8項目）：「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙」より協働的・双方向的な学びの状態や児童生徒の主体的・能動的に学ぶ力の測定に関わると考えられる項目を抜粋

表2 言語活動の充実に関わる共通の質問項目

1 国語（図画工作 社会 英語 理科）の勉強は好きですか
2 国語（図画工作 社会 英語 理科）の勉強は大切だと思いますか
3 国語（図画工作 社会 英語 理科）の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか

※質問項目1～3（3項目）：「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙」より教科に関わる項目を抜粋

表3 ICTを活用した授業に関する質問項目

1	楽しく学習できた。 そう思う理由を書きましょう[自由記述]
2	自分から進んで学習できた
3	学習した内容がよく分かった
4	自分の意見や考えをみんなに伝えることができた
5	今日の授業は、友だちとの間で話し合い、お互いに考えを伝え合う授業になった
6	今日の授業は、パソコンやプロジェクターなどを使った授業だから、勉強する内容について、興味や関心が高まった
7	今日の授業は、パソコンやプロジェクターなどを使った授業だったから、今日の勉強のめあてがよく分かった
8	今日の授業は、パソコンやプロジェクターなどを使った授業だったから、先生や友だちの話や説明がよく伝わった
9	今日の授業は、パソコンやプロジェクターなどを使った授業だったから、よく考えて自分の考えがより深くなったように感じた
10	今日の授業は、パソコンやプロジェクターなどを使った授業だったから、よく分かって自分の知識や理解がより深くなったように感じた
11	今日の授業は、パソコンやプロジェクターなどを使った授業だったから、友だちとの話し合いはより上がって、みんなの考えがより深くなったように感じた
12	友だちとの話し合いの中で、心に残った言葉や意見があれば書きましょう[自由記述] ()さんの()という言葉・意見 ()さんの()という言葉・意見 ()さんの()という言葉・意見
13	今日の授業で感じたことを自由に書きましょう[自由記述]

5 研究結果と考察

各研究員が5月から12月にかけて協働的・双方向的な学びを取り入れた授業を実践した。実践の前後に実施した質問紙調査と授業観察、児童生徒の記述・作品の検証、授業を行った研究員の所感等から、協働的・双方向的な学びは主体的・能動的に学ぶ力を育成することに有効であると考えられる。各研究員の研究の説明については次章以降で述べる。

参考・引用文献

- (1) 今西・高木・小寫他(2014)「児童生徒の学ぶ意欲を高める授業の工夫—共に学び合う活動の充実から—」『平成25年度 指定研究員研究報告』奈良県立教育研究所
- (2) 文部科学省(平成25年6月14日)「教育振興基本計画」p.37
- (3) 櫻井茂男(2009)『自ら学ぶ意欲の心理学—キャリア発達の視点を加えて』有斐閣